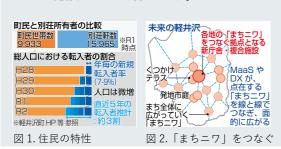
風土自治を育む場=「まちニワ」の拠点となる新庁舎・複合施設

地方都市の人口が減少する中、軽井沢町の人 口は年々微増し、現在の総人口は約2万人と なっています。下図の人口内訳(図1)を見 ると、新規転入者の増加が著しい一方、元住 民は減少傾向にあります。また、町民世帯数 に比べ、別荘件数が高いといった特徴もあり

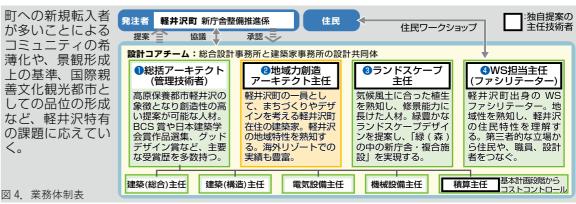
このことから、人口増によるまちの活性化が 期待される反面、地域コミュニティの希薄化 による「風土自治」の低下が危惧されます。 私たちは「軽井沢グランドデザイン」に描か れている「まちニワ(中村良夫氏が提唱。社 交・賑わいの場) | に着目し、新庁舎・複合 施設を、町に点在する(させる)「まちニワ」 をつなぐ新たな拠点と位置づけ、50年、100 年先のまちづくり=「風土自治」について、 住民と行政が一緒に考える「場=まちニワ」 となる施設づくりを行います。





取組体制

軽井沢特有の風土に応える「4 本柱(下図❶ - ❹)| を中心とした特別の設計共同体を形成



工程計画

要望を確実に反映するための 段階的なスケジュール・コスト管理によるフロントローディング

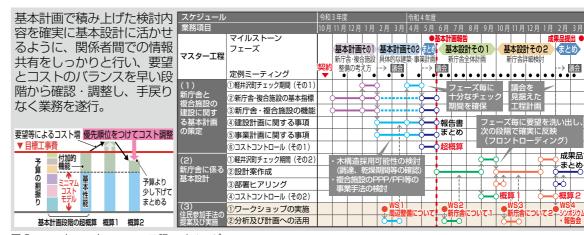


図5 コストコントロール・丁程のイメージ

将来を見据えた配慮事項 -1 軽井沢の風土を読み解く

浅間山の眺望に配慮した施設計画:浅間山の景観と調和し、 隣接する軽井沢病院の病室からの浅間山への眺望を阻害し ない配置・デザインとします。

緑をつなげ、まとう庁舎:湯川ふるさと公園から離山へと 緑を連続させ、緑の回廊(グリーン・コリドー)をつなげ ることで、「ふるさと軽井沢」の自然景観を保持します。

中軽井沢のまちづくりとの調和:軽井沢グランドデザイン で掲げられている「くつかけのまち並み」と調和した、歩 いて楽しめる施設とします。

高原保養都市軽井沢のシンボルとなるデザイン:軽井沢を 象徴する素材(浅間石・県産木材)を、構造材や仕上材等 に取り入れたデザインを検討します。

1. 切妻・寄棟等の傾斜

最低勾配: 2/10

軒出:50cm以上

3. 建築物の階: 3階以下

への形態制限

事業地の3%以上

5ml/ F

1ml/ F

0.屋上の設備に 目隠し等の配慮

のある屋根



図 6. 軽井沢の風土と建築条件

将来を見据えた配慮事項 -2 Society5.0 を見据える

軽井沢病院のロータリーとの一体整備を見据えた配置計画: 自動運転等の MaaS の進展を見据え、将来的に新庁舎・複 合施設と軽井沢病院とが一緒に利用できる中央ロータリー を中心とした「交通広場」を整備できる配置計画とします。 「もりの縁側」: DX の進展により、簡易書類の発行などの手 続きは窓口に来なくてもできるようになることで、庁舎に 訪れる住民は減り、交流の機会も減少します。そこで新た な地域コミュニティを育む場として「もりの縁側」を新庁舎・ 複合施設・病院の中央に計画し、上記の「交通広場」と一 体化することで、日常的に人が集まる場を形成します。

ユニバーサルデザインの徹底:LGBTO など多様性が広がる 社会において、だれもが使いやすい施設を目指します。



図 7. Society 5.0 や MaaS を見据えた施設計画の考え方

直近の課題に関する配慮事項 -1 建設費の削減

仮設庁舎を必要としない配置計画:新 庁舎を敷地北側に配置することで、仮 設庁舎を必要とせず、建設工事中も支 障なく庁舎運営ができる計画としま す。これにより、仮設庁舎建設費と建 設時排出 CO2 を削減します。

740,000,000 円 :O₂ 削減 🎄 💻 カラマツ 50 本分 しない利点

補助金の活用検討:環境省の交付する補助金「地域レジリ エンス・脱炭素化を同時実現する避難施設等への自立・分 散型エネルギー設備等導入推進事業」の適用に取り組み、 建設コストの縮減に努めます。また、補助金が年度ごとに 更新されることをふまえ、最新の補助金制度の情報を調査・ 検討し、コスト縮減の可能性を追求します。

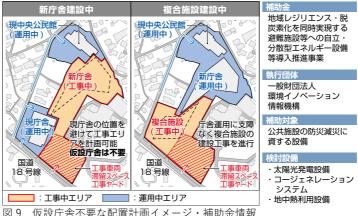


図 9. 仮設庁舎不要な配置計画イメージ・補助金情報

直近の課題に関する配慮事項-2 周辺交通環境の改善

工事期間中の国道 18 号線の渋滞に配慮: 周辺の住環境の保 全や敷地内の庁舎・公民館利用者の安全に配慮し、工事車 両出入口は国道18号線側に限定して設けます。また、渋滞 が大きな問題となっている国道 18 号線への影響を最小限に 抑えるために、道路に面して工事車両の滞留スペースを十 分に確保し、工事車両の出入りの円滑化に努めます。

新庁舎開庁後の周辺交通状況の改善:日常的に渋滞が発生 している国道 18 号線と敷地西側道路の交差点に信号機を整 備することと、計画敷地の一部をセットバックし右折レー ンを増設する車道拡幅整備を行うことで、国道 18 号線と交 差点の混雑を緩和する計画とします。これにより、西側道 路からアクセスする新庁舎駐車場の利便性が高まります。

駐車場



図 10. 周辺交通に配慮した施設計画